

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年12月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2016年12月7日～26日
- 調査対象 200社
- 回答企業 102社
- 回収率 51.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より1.1ポイント回復の▲11.8。

2014年4月以来33ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、製造業、サービス業の3業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲16.7と当月に比べ4.9ポイント悪化を見込んでいる。

業種別でみると、建設業、製造業で悪化が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

| | 2016年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 2017年1月～3月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------|
| 業況 | ▲23.1 | ▲15.4 | ▲15.4 | ▲17.3 | ▲12.9 | ▲11.8 | ▲16.7 |
| 売上 | ▲20.0 | ▲14.5 | ▲14.5 | ▲13.4 | ▲6.0 | ▲15.7 | ▲17.7 |
| 採算 | ▲16.2 | ▲18.3 | ▲18.3 | ▲14.4 | ▲11.8 | ▲9.8 | ▲12.7 |
| 仕入単価 | ▲18.3 | ▲13.5 | ▲13.5 | ▲20.2 | ▲21.8 | ▲25.5 | ▲27.5 |
| 従業員 | 31.4 | 29.8 | 29.8 | 35.6 | 24.7 | 25.5 | 22.6 |
| 資金繰り | ▲5.7 | ▲1.9 | ▲1.9 | ▲5.8 | ▲7.0 | ▲6.8 | ▲10.8 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2016年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 2017年1月～3月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------|
| 建設 | ▲20.8 | ▲25.0 | ▲20.8 | ▲16.0 | ▲13.6 | 0.0 | 0.0 |
| 製造 | ▲14.3 | ▲3.9 | ▲12.0 | ▲8.0 | ▲7.4 | 0.0 | 0.0 |
| 卸売 | ▲40.0 | ▲19.0 | ▲31.9 | ▲20.0 | ▲16.7 | ▲36.8 | ▲42.1 |
| 小売 | ▲29.4 | ▲25.0 | ▲28.6 | ▲53.3 | ▲25.0 | ▲43.7 | ▲43.8 |
| サービス | ▲13.4 | ▲5.9 | ▲27.7 | 0.0 | ▲5.5 | 11.7 | ▲11.7 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|-------|---|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの技術開発が実を結ぶようになってきた ・道内公共事業の発注が少ないため 11 月までの受注は前年対比 86%でしたが、12 月に入り災害復旧受注もあり、前年並みとなってきている。 ・昨年と比べ民間工事、公共工事とも受注が減少している。 ・鉄工事が少ないため売上は減少。来年は鉄工事が入って売上が多くなる予定。 ・多少の仕事量の減少はありますが、大きな影響はありません。 ・新規需要開拓（道内外への販路拡大） |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度（6 月）工場を増設した設備投資効果が 10 月頃から徐々に出てきている。今後も期待できそう。 ・道外需要が旺盛。北方領土の経済開発を目論んだ動きが早くも見られる。（根室地方） ・売上高は前年比減。特に夏場以降が厳しい。IT 化の影響や個人消費の低迷等が主因であるが、減少要因をリカバリできない。営業力不足も否めない。 ・先行き不透明。主要資材のアルミ材は円安のため価格上昇の情報あり。本年夏の災害復旧のため当社受注予定の工事が中止となるなど公共工事の見通しが見えない。 ・地域内の地元企業の新しい店舗建物ができていない。本州資本による進出は結局地元企業のマイナス材料となっている。地産地消が肝要である。 ・製品の約 7 割が輸出である事から、為替の変動が大きく影響。自社努力ではコントロールできないところではあるが、採算に大きく影響する問題である。 ・募集に関して応募数が減少している。特に東京エリアは採用が厳しくなって求人コストが増大傾向にある。地方企業としても人事戦略化が求められる。 |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・売上は伸びているが利益はそれほど比例して伸びていない ・昨年と特に変わりなし ・石油製品全般、12 月に入り値上げがありました。今後も多少の値上げが予想されますが小幅なものと思われます。 |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費はかなり厳しい。前年より雪が降る時期が 1 ヶ月早いですが、毎年の 12 月のような雰囲気はなく、売上も大変苦戦している。クリスマスプレゼントを買い求めるお客様例年より少ない。 ・急激な円安・原油高と例年より早い降雪による灯油の国内在庫減少により灯油の仕入れ価格が短期間に上昇。小売価格の改定が追いつかない。 |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・当月及び先行き見通しも厳しい状況。供給の過多（新規ホテル）、需要減速（インバウンド）。特にトランスアジア解散に伴う台湾路線が途絶えた影響は大きい。 ・旭川、道北地方は大雪と観光客不足で例年より 1 割以上少なく苦戦している。札幌、ニセコ、函館方面は昨年より 3 割アップしてリンネが忙しい状況です。また、人手不足は深刻ですが、今年 12 月期 6 名、来年 3 月 5 名ベトナムより研修生が、来年 3 月には新卒高校生が 10 名程内定しているので、何とか来年度は乗り越えることが出来そう。 ・忘年会シーズンに入ったが出足は鈍い。後半はもち直しそう。 ・車輛販売の減少や保有台数の減少により売り上げ減少。 ・従業員の高齢化、従業員不足。 ・想定外の積雪量により、作業に遅れが生じている。 ・外国便の撤退等によりインバウンド客減少。早く国際線建設を目指し東アジア諸国等に官民一体で積極的誘致活動を希望。 |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|--|
| 建設業 | <p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI14.0 ポイント回復、仕入単価 DI2.3 ポイント悪化、資金 DI8.6 ポイント回復、従業員 DI16.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.6 ポイント回復となった。業種別では、総合工事 22 ポイント、設備その他 6 ポイント、建築 17 ポイント回復となった。道内公共事業の発注が少ないため 11 月までの受注は前年対比 86%だったが、12 月に入り災害復旧受注もあり前年並みとなってきているとの声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI15.1 ポイント悪化、採算 DI3.5 ポイント回復、仕入単価 DI11.8 ポイント悪化、資金 DI7.7 ポイント悪化、従業員 DI23.3 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 7.4 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 35 ポイント、家具木材 20 ポイント悪化、食料品 33 ポイント、金属窯業他 18 ポイント回復となった。地域内に地元企業の新しい店舗建物ができていない。本州資本による進出は結局地元企業のマイナス材料。地産地消が肝要であるとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI15.5 ポイント悪化、採算 DI10.2 ポイント悪化、仕入単価 DI3.5 ポイント悪化、資金 DI0.6 ポイント回復、従業員 DI12.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 20.1 ポイント悪化となった。業種別では、繊維横ばい、食料品 29 ポイント、機械鋼材 20 ポイント、その他 19 ポイント悪化となった。売上は伸びているが利益はそれほど比例して伸びていないとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI12.4 ポイント悪化、採算 DI6.2 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、資金 DI6.3 ポイント悪化、従業員 DI6.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 18.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、自動車横ばい、衣料品 50 ポイント、その他 19 ポイント悪化となった。個人消費者かなり厳しい。前年より雪が降る時期が 1 ヶ月早い、毎年の 12 月のような雰囲気はなく、売上も大変苦戦している。クリスマスプレゼントを買い求めるお客様も例年より少なく感じるとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI0.7 ポイント悪化、採算 DI5.5 ポイント回復、仕入単価 DI3.9 ポイント回復、資金 DI5.8 ポイント回復、従業員 DI7.2 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 17.2 ポイント回復となった。業種別では運送 33 ポイント悪化、クリーニング、その他横ばい、ホテル 25 ポイント、飲食 33 ポイント、整備業 25 ポイント回復となった。旭川及び道北地方は大雪と観光客不足で例年より 1 割以上少なく苦戦している。札幌・ニセコ・函館方面は昨年より 3 割アップしてリネが忙しい状況。また、人手不足は深刻だがベトナムからの研修生及び新卒者が数十名内定しているため来年はなんとか乗り越えられそうという声も寄せられている。単価下落で前年売上比マイナス 5%の見込みという声も寄せられている。</p> |